日本経済学会 2006 年度秋季大会 報告要旨

セッション名： ファイナンス1 （10 月 22 日午前）

題名： Consumption-Wealth Ratio and Japanese Stock Market

著者： 青野幸平 一橋大学大学院経済学研究科 博士課程 大学院生

祝迫得夫 一橋大学経済研究所助教授（corresponding author）

報告要旨

本論文では消費／総資産比率（厳密にはその長期均衡からの乖離）が、日本の株式市場のリターンを説明するかどうかについて検討する。Lettau and Ludvigson (2001a, b)のアメリカ市場についての研究のフレームワークに沿って、家計の消費と総資産の共和分関係からの乖離を表す変数、cay の系列を作成する。アメリカに関する分析結果と異なり、cay は将来の株式収益率・GDP 成長率の予測には役に立たない。しかし、ポートフォリオの収益率に関するクロスセクションのパターンの説明においては、統計的に有意な説明能力を持つ。アメリカのケースでは、cay はマーケット・ベータの時間を通じた変化に対応するスケーリング変数として、株式市場のクロスセクションを説明するのに対して、日本のデータでは定数項に相当する、期待収益率のパターンの構造変化を説明する変数として説明力を持つ。

論文・データのダウンロード

http://www.ier.hit-u.ac.jp/%7Eiwaisako/research/research.html